

0-14

重症 COVID-19 患者受け入れ

○安藤 和子

獨協医科大学埼玉医療センター看護部

COVID-19 の重症患者受け入れにて、環境調整だけではなくスタッフの意識向上と支援、教育体制を構築し維持するためには、病院一丸となることが必要であると再認識した。管理者として、スタッフの意識改革やメンタルケアは緊急重要事項であった。そして、社会情勢に応じて変化する体制づくりには、多職種協力が必須であったことを伝えたい。

0-15

コロナ禍における在宅リハビリテーションの推進と多職種連携教育

○須藤 誠

獨協医科大学日光医療センターリハビリテーション部

新型コロナウイルス感染症禍により、地域住民の外出は最小限に制限され、生活の中で運動をする機会は激減した。もともと生活の中での運動によって身体機能を維持していた高齢者にとって、これらの制限は身体機能の著しい低下を脅かすと考えられる。また、それらを支援する医療介護専門職は研鑽をするための学習機会が減少し、新人を含めた教育体制が十分に発揮できない状況がある。

われわれは在宅リハビリテーションを推進するため、在宅でできる運動動画を作製し、比較的安易に閲覧できるツールを用いて地域住民に提供した。また、多職種間で行う教育ツールとして、研修動画の作製及びWebコンテンツの利用を促進した。これらの取り組みを通して、リハビリテーション、多職種連携教育のNew Normal について考察する。